

BOOK

レコーディング・ドキュメント — ヴグネリアンへの二歩

上野 加奈

演奏学科鍵盤楽器専修（ピアノ）平成19年度卒業

私は今回、この本に出会って
久々にグッと心を掴まれた。

とにもかくにも面白い！

本文の中に「この本を読む人
は、レコーディング・プロデュー
サーの仕事への理解を深められる
こととは別に、カルシヨ一の卓越
した文章力もあって、今となって
は伝説の名歌手たちの、きわめて
人間臭いエピソードにふれること
ができる。」とあるが、全くその通
りであった。

これは、ワグナーが35歳の
1848年から61歳の1874
年にかけて文筆・作曲された
《ニーベルングの指環》を録音プロ
デューサーのジョン・カルシヨ一
が1958年から1965年にか
けて録音を手がけた時の模様が記
されたものである。

正味460ページもある上に、

あちこちで色々なことが起こって
いるため、内容をまとめて説明す
ることは極めて困難だが、言わ
ば「レコーディング・ドキュメン
ト」で、その中身を掻い摘んで話
すと、ピアノ・リハーサルはオベ
ラをレコーディングする際の必須
部分とは考えられていなかったこ
とや、レコーディングにおける歌
い手の苦勞、また、役者の気分を
盛り上げてレコーディングにこぎ
つけるまでのプロデューサーの大
変さ、スタジオ録音だからこそで
きる数々の特殊効果、この録音の
ために製作された楽器（スティア
ホーン）のこと、そして、開発さ
れたばかりのステレオ録音・再生
の技術に託された壮大な情熱、予
算報告の手紙のやりとり、ツギハ
ギ作業、《トリスタンとイゾルデ》
を三週間休みなしで一続きの期間

に録音した話など、実にいろいろ
なことが書かれている。私が中で
も特に面白いと感じたのは、録音
の際にちよつとしたトリックが使
われるシーンである。このトリッ
クによつて起こる事。それが何か
は是非読んで堪能して頂きたい。
この本を読み終わった後は、お
いしいものを食べた後のような満
足感と、「なるほどなあ……しかし、
録音ってなんだらう。」と少々考え
させられる部分がある。また、不
思議なことに、460ページ分の
情報がこんがらがる事なく、自然
に処理されている。

BOOK

教育実習の味方

演奏学科鍵盤楽器専修（ピアノ）平成19年度卒業

田原 聡子

これから教育実習に行かれる
方、今からハラハラドキドキな気
持ちで一杯なのではないでしょ
うか。教育実習における悩みの一つ
として、生徒が自分の授業につい
てきてくれるかという思いを抱い

ている方が多いと思います。そん
な時、この本が是非お勧めです！
実際に私が教育実習に行つた
時、生徒は音楽の授業をどう思っ
ているのかと思ひ、「音楽の授業
楽しい？」と聞くと「楽しくない、



請求記号●J111-869
ジョン・カルシヨ一著『ニーベルング
の指環 リング・リザウンディング』
／学研／2007

私は、この上演に約15時間も
要する《ニーベルングの指環》を
抜粋でしか聴いたことがないので
いつか何かの機会にまとめて聴い
てみたいと思う。が、通称「ワ
グネリアン」への道のりはまだま
だ遠い……。

● たはら さとこ この原稿を掲載させてもら
う「ばららんど」が発行される頃、もう私は卒業して
社会人。大学は桜が満開で綺麗なんだろうなあ。

● うえの かな 私は「生」「現場」という言葉にビ
ビビときてしまいます。大学の授業でその部分
にたくさん出会えたことに感謝しています。

飽きた」という残念な返事が返ってきました。その言葉を聴き、教師初心者の私が授業をしたらどうなるのだろうと思ひ不安になりました。そこで、図書館で借りていたこの本のことをふと思ひ出し、読んでみることにしました。

この本には、生徒が授業に対し楽しいと思うことの出来るヒントがたくさん書かれていて、普段はなかなか見えない音楽の授業の事情がわかります。また詳しい指導事例も載っているので非常にわかりやすいです。楽しい授業にすることのみを考えた授業になってしまうと、必ずしも音楽科の目標にふさわしい授業になるとは言えません。まずは生徒の興味・関心を惹き付けるためにはピットリだと思ひます。

教育実習では初めてのことであり、知識を並べた教師の一方的な授業になってしまいがちです。しかしそれでは生徒はなかなかついてきてくれないでしょう。そんな時だれでも、どんな教材でもこの本を読んで学んだことを生かせば、生徒が楽しめる授業への近道になるはずで。

実際に私はこの本を参考にしながら教育実習での授業を考えました。世界の民族音楽と日本の伝統音楽の比較という、なかなか生徒が興味を持ちにくい題材をあえて選択し挑戦してみました。授業の中で、クイズを用いたり生徒が主体となる活動を取り入れたり、私なりの工夫した授業が出来上がりました。そして授業が終わった後、「先生の授業、面白かったよ」という言葉を掛けてもらえ、とても嬉しかったことを今でも忘れません。

図書館には音楽に関する文献はもちろん、教育に関する文献も多数あります。国立音大生はこんなに素晴らしい図書館を利用できるので、たくさんさんの本を読み、ぜひ色々なことを学んで卒業してください。



請求記号●J113-140
八木正一『たのしい音楽教材・アイデア・授業づくり』(国土社 1991)

図書館での電子化について

◇本学の卒論・修論等がPDFファイルで読めるようになりました◇

今まで、本学の卒論(音楽学専攻)・修論等はマイクロフィルムで利用していただいていたのですが、2006(平成18)年度分から電子化を行なうこととし、PDFファイルで読んでいただけるようになりました。作曲学科の卒業作品は1983(昭和58)年度から1995(平成7)年度まではマイクロフィルムで利用できるようになっていましたが、その後、図書館での保存は中断されていました。今回、2003(平成15)年度分から卒業演奏会で演奏された作品に限定し、図書館での保存を再開することになりました。

また、今まで音楽学専攻の卒論のみを対象としていましたが、2007(平成19)年度分からは「音楽デザイン学科」のコース修了による「課題研究」も保存の対象となる予定です。

◇竹内文庫の電子化公開 その2◇

竹内道敬寄託文庫目録(その11)の電子化を実施し、参考図書室内の情報端末で公開したことについては、ぱるらんど254号に掲載しました。その後も立命館大学アート・リサーチセンターとの「学術情報に関する相互協力協定」での電子化の作業は継続しています。電子化は目録単位ではなく、分野別で行なっています。今回の対象は、常磐津・富本・長唄・宮古路・錦絵です。今回も、「ZOOMA」(高精細画像閲覧ソフト)を使用し、簡単な操作で閲覧できるようになっています。

どちらの資料も参考図書室内の情報端末からアクセスできます。